

幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟

会報 No.62

令和3年9月30日

心のデイスタンス

会長 馬場 洋一



57年ぶりの東京オリンピック・パラリンピックは、紆余曲折を経て、無観客など不完全な形で開催されました。世界的な新型コロナウイルス感染の拡大の影響を受け、1年延期という初めての事態でした。賛否両論が渦巻く

中の開催となりましたが、各国の出場選手たちの輝く笑顔、達成感、そして感謝の言葉は、せめてもの救いとなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大は未だに衰えず、日本各地で第5波を迎えて医療崩壊ともいわれる状態に陥り、私も横浜能楽連盟も昨年3月の「五流交流のつどい」から今年10月の「横

浜五流能楽大会」まで、すべての大会の中止を余儀なくされました。感染症対策をして実施することも再三検討しましたが、我々素人の愛好家の集まりには、「安全・安心」な開催が何よりも重要な課題であるという共通認識に至り、やむなく中止の決断をいたしました。

私事ですが、この1年半以上電車・バスには一度も乗らず、通勤・通院には自家用車を用いています。外食したのも数えるほどで、しかももっぱら『孤独のグルメ』ならぬ「独りランチ」です。謡のほうも同様で、県外から先生に来ていただくわけにもいかず、昨年の春以来、緊急事態宣言の隙間をぬってほんの数回しか稽古できませんでした。私の例を引くまでもなく、多くの方々が長期にわたる自粛生活を強いられ、窮屈な生活をされていることと思います。昨

年の秋には「来年は五流大会を開催できるだろう」と希望を持ち、準備を進めてきましたが、それも叶いませんでした。「オリ・パラが開催されるなら大会も」という願いは、儚い夢と消えました。

いつになったら「普通の生活」に戻れるのでしょうか？ 何の心配もなく人と人とが触れ合い、屈託なく語り合える日が来るのでしょうか？ 初対面の時からマスクをした顔しか知らない人が、どれだけ増えていくのでしょうか？ そんな不安を抱えながら生活する日々が続きます。

「コロナ生活」がここまで長くなると、人々の心もずさんできたように感じることはありません。「宣言が出ているのにこんなに人が出ていて、おかしいですよ」とニュース番組の街頭インタビュに答えながら人ごみをきたないものを見るように振り返る女性に、自分は特別だと思っているのかと苦笑を禁じ得ません。「国は飲み会をするなどと言うけど、エライ人もやっているし」と答える若者の気持ちも理解できます。

政治の世界は、自らの立場を守るその場逃れの言い訳に終始し、責任は他にあると言わんばかりの発言が目立つ「無責任症候群」。それが一般国民にま

で「感染」していると感じるのは私だけでしょか。物理的な距離を保つという「ソーシャルデイスタンス」が、心の距離をも取らせる事態に陥っているように思えてなりません。

横浜能楽連盟の会員の皆様におかれましては、まずは感染予防、そして何とかして「心の距離」を近く保ちながら、健やかにお過ごしいただきたく存じます。今しばらく耐える時期が続くと思われませんが、晴れやかな顔で再会できる日を楽しみにいたします。

☆お知らせ☆

◎10月23日(土) 開催予定の

「第37回五流能楽大会」は、

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。

◎「第24回五流交流のつどい」

令和4年3月12日(土) 午前9時45分開始

会場 横浜能楽堂本舞台/入場無料

五流各団体により、素謡・仕舞などが演じられます。

比較的舞台経験の少ない方を中心に行われ、

学生招待演目等もあります。

入会のご案内

横浜能楽連盟では、常時会員を募集しております。会員の方で、同門・同社中にまだ入会されていない方がおられましたら、ぜひ入会をお勧めください。個人でも団体でも受け付けております。入会希望の方は、ホームページまたは事務局へご連絡ください。

連盟事業報告 (令和2年度)

副会長 青山 圭佑

令和2年度は、「新型コロナウイルス感染症」による緊急事態宣言に伴って、すべての事業予定が、中止または延期せざるをえない事態となりました。

本年3月31日付の「幽玄」61号において、馬場会長がこの状況を報告されており、重複となりますが、改めてご報告いたします。

一、定期総会

令和2年4月27日に開催予定であった総会は、会場への集合を取りやめて書面総会に切り替え、連盟発足以来初めての形式によって行われました。なお役員の改選は、令和3年度予定のため行われませんでした。

二、大会について

「横浜五流能楽大会」は、令和2年10月17日(土)に開催の予定でしたが、コロナ禍による集会の自粛ということで1年の順延にし、現時点では当番流派喜多流にて本年10月23日(土)開催予定にて準備を進めております。(中止が決定されました)

「五流交流のつどい」も、令和3年3月13日(土)開催の予定でしたが、同じくコロナ禍に

て1年の順延とし、担当流派金春流で令和4年3月12日(土)に開催予定です。

三、横浜能について

横浜能楽堂との共催「第68回横浜能」(喜多流)は、令和2年6月開催予定でしたが、令和3年6月5日(土)に延期され、演目は変わらず能「巴」(中村邦生)及び狂言「見物左衛門」(野村萬)にて開催されました。

四、会報について

会報「幽玄」は、第60号を令和2年9月30日付、第61号を令和3年3月31日付にて発行いたしました。

なお、平成31年に開設された「横浜能楽連盟ホームページ」には、この「幽玄」の第1号から本号まですべてが掲載されております。

五、会員の動向

令和3年3月31日現在、個人会員数339名(前年度359名)、団体会員38団体(前年度39団体)です。会員数の減少傾向が続いております。

なお、会員の減少による会費の減少およびコロナ禍による予定行事の中止等によって、連盟

の会計状況は、近年では支出が収入を上回っております。そこで、能楽振興積立金(定期預金)を取り崩して充当している状態です。

発見を楽しんで

観世流 浦 多佳子

和謡会に入部させていただき謡と仕舞のお稽古を始めて6、7年になります。尊敬する先生方と、個性豊かな先輩方・お仲間にも恵まれ、お稽古の楽しさや能への興味が深まるこの頃です。

私にとってお稽古の楽しみは何かというと、まず：先生の鍛え抜かれた豊かな謡を、すぐそばでお聴きできることです。能の舞台を彷彿とさせる、常に臨場感あふれる謡を、お稽古の場にてお聴きできる幸せがあります。そして、グループのメンバーで前回習った謡の部分をさらさら

いする時は、ユニゾンの中に身を置くことができます。地頭の方の謡に耳を傾けながら、セリフあり、ナレーションあり、和歌ありの謡を、大きな声を出して謡うことは、緊張感を伴うチャレンジです。

能の題材は、古事記・日本書紀・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・平家物語・源平盛衰記・源氏物語・伊勢物語・中国の史記・長恨歌等々多くあり、謡うことで日本の歴史や古典文学に触れることができます。今から700年程も前に完成した、世界に誇る古典芸能を体験できることを、嬉しく思います。

仕舞を初めてお稽古した日から先生が、一つひとつの所作やその意味を、初心者にもわかるよう丁寧に優しくご指導くださいました。先生の舞の所作の美しさには、常に感嘆し得心するのですが、それ自分には全く身につけません。お稽古のたびに、先生の構えや姿勢、動き、表現の美しさにうっとりして、豊かな気分になり、そしてまたチャレンジします。仕舞をお稽古することで、謡の内容がより身近に感じられるようになっていきたいと思います。

能の舞台を鑑賞することも、大きな楽しみです。静の中に囁きと謡と舞が一体となり進行していく：その研ぎ澄まされた美。シテの付けている能面が、面ではなくシテその人の表情に見えてくる時があります。感情が揺さぶられます。私は常々世界の民族音楽に関心をもっていました。今「能」と向き合い、「日本の文化」「日本らしさ」の魅力に感動を覚えます。

和謡会は年に3回の発表会を開催しています(コロナ禍以前は年4回で、大きな会もありました)。毎회가、まるで一日中オペラに参加しているような楽しさです。3月には清音会が催され、私も自分を見つめる機会として参加し、先生方の地謡で舞わせていただいています。

お稽古の中、能鑑賞の中、先輩やお仲間と話す中で、一つの発見がある時の嬉しさは格別です。一歩ずつ歩み、発見を楽しんでいく所存です。

私とお能、そして感謝

観世流梅若会 福島 久子

私は6歳の時、母に連れられて故梅若泰之(後恭行)先生の田園調布のお宅に伺い、鶴亀の仕舞を習いました。帰り道、母に「先生、やさしいでしょ?」と言われて頷いたセピア色の記憶があります。その時が仕舞との出会いでした。

我が家では、祖父母、両親、弟と、家族そろって謡曲・仕舞を習っていました。時は昭和30年代後半、私が小学生の頃には、先生が出稽古に我が家にいらしていました。祖父が横浜港のパイロットだったので、その仕事仲間のおじい様達5、6人もお

稽古にみえて、大層にぎやかでした。先生にお食事も出すのでその日は母が腕をふるってのご馳走。学校から帰って玄関に靴がたくさん並んでいると、にんまりしたのを覚えていました。

母が船弁慶のお能をした時はその子方を、その後吉野天人や憧れていた石橋、狸々乱も母と舞いました。素人としてはずいぶん贅沢な経験ができたものと、祖父母や両親に感謝しています。横濱能楽堂建立時には、母はお弟子さん達と紅葉狩鬼揃のお能をしましたが、私はまだ子供に手がかる頃で、お稽古からは離れていました。

6年前、母との同居を始めてから、謡のお稽古を再開しました。節付けを読めるようになりたかったのですが、手ごわくて諦めかけていた時、コロナ籠りの生活が始まったのです。そこで、棚の飾りと化していた能狂言関連の書籍や古典を読み始めました。「梅原猛の授業 能を観る」「親鸞と世阿弥」「伊勢物語」「古今和歌集」等々。そして佐成謙太郎氏の「謡曲大観」も。つくづく父が素晴らしい買い物をしてくれたものだと、感謝しています。

夫の叔母が80歳過ぎから謡を習い始め、「私は節回しは覚えられなくても、読み物として面

白くてたまらない」と言っていたのを思い出しました。謡との付き合い方は人それぞれなのだと思います。

謡本を読んでいると、世阿弥の頭の中では和歌やら故事やら仏の道などが自由自在にリンクしていたのかと驚くばかり。その繋がりに気づくととても嬉しくなります。

馬場あき子さんの解説付きの「歌枕の旅」や「横濱狂言堂」シリーズを見るため、横濱能楽堂に行く機会も増えました。薪能を見に川崎大師にも行きました。一緒に行った娘の「古典芸能に触れる機会が人よりもある」という一言で、あらためて自分の環境に感謝すべきだと気づいた次第です。

私は全国通訳案内士という、外国人に日本国内を案内して日本の歴史や文化を伝える仕事をしています。2020年初頭までは、バスの中で外国人客に能楽カレンダーを活用して写真を見せながら説明していました。「能は面を使った日本固有のオペラ」という認識のある人も多く、興味を持って聞いてくれました。

今後また、世界の人達と交流できる日が来ます。日本の誇らしい伝統芸能である能狂言を、世界の人達に紹介する、発信す

ることに関わっていきたくて思う今日この頃です。

古希から傘寿へ

下懸宝生流 上西 紘治

8年前70歳になった時、それまでの会社中心の人生を、少しは地域密着の生活に変えたいと考えるようになりました。そんな折、現役を終えた人達が集う「男のセカンドステージの生き方を探る」という会があることを知り、誘われるままに入会しました。会の名称はいかめしいのですが、仲間をつくり第二の人生を豊かなものにしようという趣旨でした。

その会のある日の集いに藤田先生をお招きし、謡曲について講演していただきました。藤田先生は会員と年代で小柄な方でしたが、一度謡を始められると、張りのある声が部屋中に響き渡り、みんなその声量に圧倒されました。先生の謡われた後を追って一人ずつ謡いましたがほとんどの参加者は謡曲が初体験でしたから、民謡調や詩吟調ありで大笑いになりました。最後に先生は「謡曲は音痴でも謡えます。自分の声に自信を持ち力強く謡うことです」と結ばれました。私でも謡えるのか、ぜ

ひ謡えるようになりたいと思ひ立ち、講師控室で先生に習いたい旨のお願いをしました。

謡を習い始めてまだ日の浅い時、土屋恵一郎氏の明治大学学長就任祝いの挨拶に伺った折、同氏の新著「世阿弥 風姿花伝」を頂戴しました。新著についての説明を受けましたが、能についての識見のない私では会話にもならず、みじめな思いをしました。後日、土屋氏は下懸宝生流宗家・宝生閑氏をテーマにした「幻視の座―能楽師・宝生閑聞き書き」の著者であることを知りました。

謡を習い始めて5年になります。最初は、作品の内容、特に現世とあの世の区分け、幻や霊の舞台展開がすぐには理解できず、また度々出てくる仏教用語にも悩まされましたが、現存する地名や建築物が出てくると、現在の風景の500年前に思いを巡らすことができ、楽しさを感じています。新しい曲の稽古の際に、時代背景や登場人物についての解説資料が用意されており、勉強をする機会が増えました。肝心のお謡はというと、同時期に始めた仲間の皆さんと比べると、上達が遅い、声がかうまく出せない…、私の声は謡曲に向いていないのでは、と思ひ込んでいました。そんな時に、

「謡曲はうまく謡おうとするほど、聞き苦しい謡になってしまいます。何回も繰り返して謡っているうちに少しずつ情景が理解でき、声も出るようになってきます」と藤田先生からのお言葉を受け、この頃ようやく謡の楽しさを実感できるようになりました。

「これからも体力の続く限り謡を続けたい」傘寿を目前にした私の目標であり楽しみでもあります。

私と謡

金春流 小林 美恵

私が謡の稽古を始めたのは、退職2年前のことでした。同業の友人から、退職後の楽しみに始めたらどうかと勧められたのです。初めて稽古場に伺った時に、先生から「どんな能を見たことがありますか？」と尋ねられ、「土蜘蛛」と「角田川」と答えたことを覚えています。

初めての稽古は「羽衣」でした。それから18年、謡本も数十冊になりました。よく続いたものだと思います。コロナの今では考えられませんが、同門の皆様と春日神社の若宮御祭に出かけたり、お花見や、都筑区の閑家住宅や古民家をお借りして

謡ったり、銀座の金春祭を見学したり。金春祭のそろいの浴衣も作りました。楽しい思い出がたくさんできました。

先生のお世話で数年前から仕事も大変なことです。衰えた記憶舞の稽古も始めました。後期高齢者の私にとって、謡本を見ないで謡い舞うということはとてもまた、謡の稽古をしていると

能楽堂だより 令和3年10月～4年3月の公演案内

令和3年10月から4年3月までの横浜能楽堂公演予定は次の通りです。ぜひお運びください。

特別公演

10月17日(日) 午後2時開演

狂言「二千石」(大蔵流) 善竹彌五郎
能「井筒 物着」(宝生流) 宝生和英
S席七千円/A席六千円/B席五千円
▽チケット発売中

普及公演

11月21日(日) 午後2時開演

狂言「鎌腹」(大蔵流) 善竹隆司
能「鶴」(金剛流) 宇高竜成
S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円
▽チケット発売中

普及公演「眠くならず楽しめる能の名曲」

12月11日(土) 午後2時開演

狂言「節分」(大蔵流) 山本則秀
能「紅葉狩」(観世流) 谷本健吾
S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円
▽チケット発売中

普及公演

4年2月26日(土) 午後2時開演

◎連盟後援行事

「第37回横浜かもん山能」10月16日(土) 横浜能楽堂本舞台：能「羽衣」(喜多流・栗谷明生) 他

狂言「大般若」(和泉流) 三宅右矩
能「黒塚」(宝生流) 高橋憲正
S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円
▽チケット発売：3年11月13日(土) 正午から

普及公演「バリアフリー能」
4年3月19日(土) 午後2時開演

狂言「清水」(和泉流) 井上松次郎
能「殺生石」(金春流) 高橋 忍
S席四千五百円/A席四千円/B席三千五百円
▽チケット発売：4年1月15日(土) 正午から
介助者1名無料

※なお、チケット発売の初日の電話は正午より、普及公演のみWEB先行は10時～11時30分。窓口販売は翌日からとなります。

横浜能楽堂 ☎045(263)3055

※毎月第2日曜日には普及公演「横浜狂言堂」を開催。狂言2番を解説付きでお送りします。

全席指定二千二百円

※今後の新型コロナウイルスの感染状況や政府方針によっては、日程・内容等が変更になる場合がございます。最新の情報は、横浜能楽堂ホームページをご確認ください。

副産物として様々なことを経験します。舞台上上がるには着物を着ます。初めて舞台上がることになった時は、美容院で着付けしていただきました。今では自分で着ます。仕舞を始めてからは、袴を付けることも覚えられました。袴のたたみ方も教えていただきました。能楽堂に出かけることも、稽古を始める以前よりずっと多くなりました。ただ見物していたころよりも、自分が稽古した演目だと一層興味深く観ることができました。

何よりもありがたく思っているのは、人前で大きな声を出したり舞ったりするのを恐れなくなったことです。子供時代から人前で話すことが苦手な私が、この歳になって変わりました。

仲間がいて、学ぶことがあって、課題に苦心することができるのは、本当に素晴らしい。先生方と、この道に誘ってくださった友人に感謝しています。

◆編集後記◆

新型コロナウイルスの猛威はとどまるところを知らず、変異株の脅威や日ごとに更新される感染者数に翻弄される毎日が続いています。謡曲愛好者は比較的高

齢者が多いので、いち早くワクチン接種の恩恵は受けられたと思います。その効果が劇的に表れるにはまだまだ時間がかかりそうです。いつになったらいつまで続くか、言い飽きた感のある先行きのはつきりしない状態の中で、私たちはもがいています。大雨など自然の驚異も以前より増した気がします。心穏やかに謡を楽しめる日はいつ来るのでしょうか。

26年もの長い間当連盟の会長を務められた新堀豊彦氏が、3月12日、89歳にて逝去されました。ここ数年は体調を崩され、連盟業務から遠ざかっておられました。が、神奈川県能楽普及や横浜能楽堂の開設などに多大な貢献をされ、現在の能楽連盟のシステムを作り上げられた方と言っても過言ではないと思います。私事ですが、同じ流派・同じ師と縁の深い方でもありません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(F・Y)

横浜能楽連盟連絡先

◎事務局 倉藤
TEL

○四五―八三五―二三六一